



ほら、
よこはまは
あったかい

社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会

福祉よこはま

市民活動・ボランティア活動情報誌

2014年
9月12日
No.173



特集

手を組む、まちと企業

～地域福祉の新しいかたち



サロンのスタッフに迎えられて
「都田地区子育てサロン～IKEA港北で遊ぼう!」に集まった人たち
(7月17日・IKEA港北2階レストスペース)
→詳しくは特集で

Topics

- ◆地域作業所で働く作業療法士▶(福祉の仕事)
- ◆初めてでも参加しやすいイベント・単発ボラ▶(Let's tryボランティア)
- ◆これからの福祉教育(啓発)のかたち▶(ボラセン情報)



「福祉よこはま」は、一部共同募金
配分金を活用して発行しています。

「福祉よこはま」は、横浜市が編集に協力しています。

手を組む、まちと企業

企業からまち(地域)へ協力を申し出て、まち(地域)から企業へ相談を持ちかけて。日ごろの見守りなどを充実させるきっかけにと、まちと企業が手を組む地域福祉の新しいかたちを紹介します。

企業からまちへ

ひとり暮らしの高齢者を見守る

青木第二地区民生委員・児童委員協議会と
読売新聞反町サービスセンターの「地域見守り協定」(神奈川区)



地域に貢献したい… 読売新聞販売店の代表者たちの話を聞いた神奈川区社会福祉協議会が、販売店と連携した見守りに賛同する地区を募り、地区ごとに協定を結ぶという取組が広がっています。配達員が、新聞がたまっているなどの異変に気づいたら、民生委員など協定を結んだ地域組織の担当者に連絡。連絡を受けた人が地域ケアプラザや区社協、警察などと一緒に様子を確認する仕組みです。

地区内で起きた70歳独居男性の孤独死。青木第二地区民生委員・児童委員協議会会長の三藤久司さんは、「町会役員や民生委員では地域の人たちの情報を

集めることに限界があり、住人の孤独死を防げなかった。読売新聞販売店の協力を得てさらに充実させたい」と考え、26年6月に見守り協定を結びました。

「緊急連絡先を持ち歩く配達員にとって、連絡先が地元の民生委員だと安心感がある」と、反町サービスセンターを含む複数の販売店を統括する読売センター店長の清水宏礼さんは協定の利点を分析。両者を結びつけた神奈川区社会福祉協議会の梅木博志さんは「配達員の気づきは、地域の要援護者マップづくりなどにも活用できる」と言います。

地域の課題

高齢者の独居傾向 住人同士の交流の希薄化
孤立・孤独死の心配は60代、70代前半でも

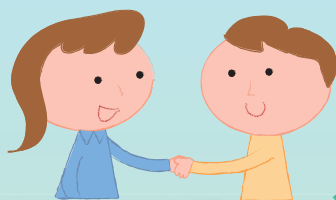
読売新聞販売店

販売店代表者の集まる場で、
地域貢献の取組を模索していた



▲読売新聞反町サービスセンターのみなさん

▶配達員が持ち歩く
緊急連絡先



青木第二地区民生委員・児童委員協議会

配達員が得た情報を見守り活動に
生かしたい

神奈川区社協

両者をコーディネート
販売店と連携した見
守りに賛同する地域を
募り、協定を働きかけ
神奈川区内の3地区
と販売店が協定を結
び、さらに3地区が協
定に向けて準備中
(26年7月現在)

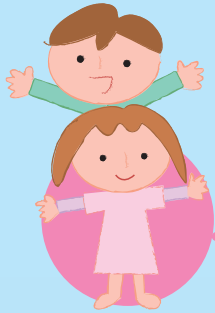


▲左から青木第二地区民生委員・児童委員協議会会長の三藤久司さんと、読売センター店長の清水宏礼さん、神奈川区社会福祉協議会の梅木博志さん

ライフライン事業者を 中心とした市内の 見守り活動

横浜市では25年1月から電気、ガス、水道、新聞、生協、乳飲料販売、宅配業者など事業者の協力を得て、日常業務の中で異変を発見した場合に区役所または警察・消防へ通報する仕組みを設けている。気づきの目を拡大し、地域の中で重層的なつながりづくりを進めることで、地域における孤立予防の対策を進めている。(26年7月現在 25事業者)

～地域福祉の新しいかたち



まち から企業へ

子育て交流、みんなが知っている場所で

「都田地区子育てサロン～IKEA港北で遊ぼう!」(都筑区)

みんながよく知っていて、集まりやすい場所で子育てサロンができれば、住民同士の交流が広がる… 地区に移り住む若い家族の増加が、十分ではなかった子育て支援に乗り出すきっかけでした。24年の秋、主任児童委員はじめ地区の人たちが地元の町会長を通じてIKEA港北の担当者を訪ね、子育てサロンの開催場所の提供を相談しました。イケア・ジャパンは、各ストアに地域活動に取り組む部署があり、企業として子育て支援に前向きな姿勢を掲げていることもあって、サロン会場としての利用が実現しました。

こうして25年3月から自治会、民生委員児童委員、主任児童委員、保健活動推進員、子育てネットワーク交流

会などによる支援を得て「都田地区子育てサロン～IKEA港北で遊ぼう!」がスタート。IKEA港北で4回、都田地区内の折本公民館と、趣旨に賛同してくれたJA横浜きた総合センターを会場に各1回、計6回／年開催しています。

利用者の声



- * 地区には遊び場がないので、こういったイベントをたくさんしてほしいです
- * 近所に子どもがいっぱいいることがわかって良かったです
- * イベントを通じて近所のお友だちが増えてうれしいです

地域の課題

都田地区南部の4町会は子育て世帯が増加しているが、交通の便も悪く、子育て中の人たちが集まり、知り合いになれる場がない

都田地区社協

みんなが集まりやすく、多くの人に知られているIKEA港北に相談。子育てサロンを主催。将来的には参加者からボランティアを育てたい。

▶ 左から葛が谷地域ケアプラザのコーディネーター、村瀬大亮さんと、都筑区都田地区主任児童委員の村田幸夫さん、前主任児童委員の中山知樹さん

葛が谷地域ケアプラザ

サロン実現に向けたコーディネート
事務局としてサロン告知・募集の広報、申込受付、スタッフ調整など



IKEA港北

企業理念にそった子育て支援協力
サロンスペース・おもちゃの提供



▲ 都田地区南部の4町内会の中心に位置するIKEA港北。サロンに車で来ても駐車場を探す心配がないなど利用者にとって便利



▲子育てサロンスタッフのみなさん

「世界で一番大切な子どもたちのため」に、各地のストアができることをする。IKEA港北の場合はそのひとつが子育てサロンの場所とおもちゃの提供でした。毎回、サロン利用者の楽しそうな姿を見ることができ、喜んでいます。他にも、おもちゃの出張貸出、区内の新生児誕生家庭へベビースプーンのセットを贈る(都筑区こんにちは赤ちゃん訪問事業への協力)といった活動を行っています。



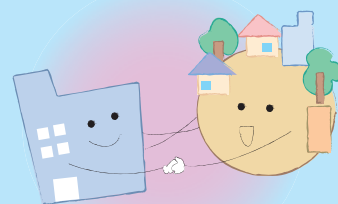
▲IKEA港北の岡嶋泰道さんと、岩崎有里子さん

広がりを見せる、まちと企業の連携

まちと企業をつなげる取組は、横浜市ボランティアセンター、各区ボランティアセンター、地域ケアプラザなどで行われています。

まち(地域)と、その一員である企業が、それぞれに持っている力を出し合い、得意な部分を生かしていければより住みやすいまちになっていく。

横浜市ボランティアセンターではこうした考えに立って、企業からの相談を受けています。



相談例

★社員向けに社会(地域)貢献に関する研修を開きたい

★ヒト・モノ・お金、ノウハウを提供したい

★社員個人が行うボランティアを応援したい

相談を受けて、まち(地域)と企業とをつないだ事例は25年度からおよそ50件。検討中のアイデアも含めて次のようなかたちで広がりを見せています。

◎水に強い紙を使ったコミュニケーションボードを、災害時の障害者支援ツールに



印刷会社

◎セキュリティをキーワードにした、保護者向け講座を開きたい



システム開発会社

◎子どもが描く「こういう未来、まちにしたい」を地域の人とともに実現させたい



資源リサイクル業協同組合

企業みなさんへ

これまでは企業の社会(地域)貢献活動として「社員に何かボランティア活動をさせたい」といった相談が多かったのですが、最近では「地域のためになることをしたい。地域から必要とされる企業になりたい。」という相談が増えています。

企業が持っている資源、業務を生かした地域貢献活動を通じて生まれる地域とのつながりは、これからの企業の強みになると思います。

地域活動をしているみなさんへ

地域から企業に直接働きかけをするのはハードルが高いかも知れません。

横浜市ボランティアセンターでは、企業と地域とをつなぐ役割として、「今こんなことに困っているから企業の力を借りたい」というみなさんの声を、地域とつながりたいと考えている企業に伝えていくことができます。気軽にご相談ください。



◀社会(地域)貢献活動を始めようと考えている企業向けのノウハウ集。横浜市ボランティアセンター作成。ダイジェスト版はホームページでも見ることができます

▶横浜市ボランティアセンターの職員宮地悠希さんと舟田泰久さん。手にしているのは、ボランティアセンターのマスコットキャラクター「ボラちゃん」



横浜市ボランティアセンター

☎045-201-8620 FAX:045-201-1620

Eメール:yvc@yokohamashakyo.jp URL:http://www.yokohamashakyo.jp/yvc/

または、各区社会福祉協議会ボランティアセンターまでお問い合わせください

高次脳機能障害地域作業所 クラブハウスすてっぷなな(都筑区)

作業療法士 ^{のの}野々垣 ^{むつみ}睦美さん

で働く

に聞きました



高次脳機能障害の人が
今置かれている自分を見つめ
つぎの一步を踏み出す
「すてっぷなな」は
私を鍛えてくれる
場でもあります

OTが活躍しているのは

- ▶ 横浜には663人(神奈川県は約1,800人/24年度)いますが、大半は病院やリハビリテーション施設勤務です。日本作業療法士協会は、地域で活躍するOTを今後5年間で50%にする目標を掲げて取り組んでいます。

OTが地域で活動することへの期待が大きい

- ▶ 脳損傷の後遺症がどんなものか。社会復帰には何が必要か。当事者が今の自分を客観的に捉えるまでの時間は人それぞれです。退院後に、社会生活、在宅生活を支える場で働くOTが支援に関われば、この先、どうやって進むかを当事者とともを考え、背中を押す機会が増えます。

OTとしてのキャリアは

- ▶ 養成校(専門学校)を卒業してリハビリテーション施設のある病院に8年。「すてっぷなな」開所と同時に責任者となり10年です。医療、地域それぞれの現場で養った視点の相乗効果を実感し始めています。

手腕が試されることは

- ▶ 社会復帰に向けて自分が進む道として何を選び、どうやって進んでいくのか。選択肢をより多く提案できることでしょうか。これまでに40人近い利用者が「すてっぷなな」を卒業していき、ここで知り合って結婚した人もいます。

作業療法士(Occupational Therapist, 略称:OT) 国家資格

発達や心身に障害のある子ども～高齢者を対象に、食事やトイレなどの日常生活、地域活動への参加、就労や復職・就学に必要な能力の維持・改善を指導する。

その人らしい生活が送れるよう、人的・物的環境の調整、社会資源やさまざまな制度の活用を促す支援を行う。

クラブハウスすてっぷなな 運営:NPO法人脳外傷友の会ナナ。平成16年4月開所

脳卒中や交通事故などによる脳の損傷から起きる記憶障害・社会的行動障害などを負った高次脳機能障害の、40歳までの若年者を対象とする施設。就労の基礎となる生活力の向上を目指し、社会性や対人関係に着目した支援を行っている。

※高次脳機能障害については9ページの福祉Q&Aをご覧ください。



ガラス張りの外観が目印のクラブハウスすてっぷなな

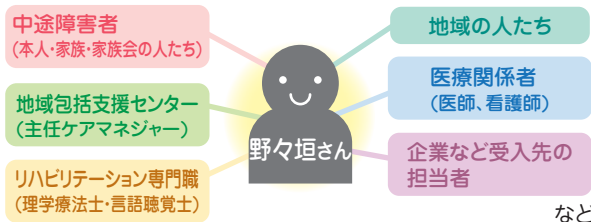


取材に応じてくれた「すてっぷなな」の職員。
野々垣さん、青木明子さん、越村祐子さんと
澤島光洋さん(手前)

野々垣さんのおもな仕事

- ★「すてっぷなな」に通ってくる利用者の障害特性をみきわめ、社会復帰に必要と思えることを組み合わせ、提案し、本人の選択につなげる。
- ★後進のOT、スタッフの育成。
- ★「すてっぷなな」の統括所長として、就労先の受入環境向上などの助言。

関わる人が多い人たち



横浜市内の福祉人材に
関する求人情報

ウェルじゃん求人情報 <http://www.yokohamashakyo.jp/willing/weljan/weljan-kyujin.html>
横浜市介護人材求人情報システム <http://cgi.city.yokohama.jp/kenkou/zinzaikakuho>

Let's try ボランティア



ボランティアに興味がある。始めてみたい。そんなあなたの気持ちにこたえるLet's try ボランティア。今回は、寺尾地区センター(鶴見区)で、地域の子ども・小中学生を対象に毎年行われている「テラチクこどもまつり」会場で活動した人たちに話を聞きました。

イベント・単発 ボランティア

どんな活動？

「テラチクこどもまつり」の場合…

- ★ イベント会場の設営と撤収、催事の準備など午前から午後にわたり活動
- ★ スライムづくりやスポーツチャンバラ体験コーナーでのサポート



ここがポイント！

★ 単発なので、気軽に参加できる

- 普段忙しい人でも休みがあれば参加しやすい
- 技術や経験を問わずに参加できる
- ボランティアメンバーが固定されていないので、初めての人も仲間に入りやすい
- 中高生から社会人、70代まで参加。ボランティア同士の交流も楽しみ



▲消費生活推進員と一緒に、ペットボトルのふたで笛をつくった寺尾中学校福祉委員会の車田駿介さん、川田耕太さん、松本元直さん、榎本裕太さんと坂巻健一先生



▲初参加の高校生3人組。左から岸本茉莉奈さん、山口尚也さん、尾園裕美さん(スポーツチャンバラ体験会場)

▲IT企業に勤める穂坂祐介さん。スライムづくりコーナーの前で

ボランティアに聞きました

- ◆ 祝日に行われるイベント…会社は休み…じゃあ参加してみるか、という理由で(30代男性)
- ◆ イベント会場での単発ボランティアは、新鮮な気分で臨めます。時間のある時にやってみたい、という人に向いています(50代男性)
- ◆ ボランティア活動は社会人になってから始めました。親子で手作りを楽しめるプログラムを仲間と考え、保育園や幼稚園に出向いています。子どもとの交流は刺激になり、他のボランティアとも知り合いになれば、世界観が変わります(20代男性)
- ◆ ホームページで募集を見つけ、参加しました。何をしたらいいか、最初は戸惑いましたが、自分にできることを見つけて動きました。いろいろな人と接点が持てて楽しかったです(高校生男女)
- ◆ 部活や試験などでボランティアの機会がとれませんでした。夏休みに入り、学校近くの寺尾地区センターで募集していたので参加しました(横浜市立寺尾中学校福祉委員会のみなさん)

担当者から…

イベントサポートなどの単発ボランティアは「初めの一歩」として良いかもしれません。中高生をはじめとして、幅広い世代の人が地域の行事などの手伝いにも関わって、今回のボランティア体験を生かしてくれればうれしいです(寺尾地区センター職員の三ツ橋健さん)。



ボランティアに関する問合せ

横浜市ボランティアセンター、またはお近くの区ボランティアセンターへ

これからの 福祉教育(啓発)のかたち

横浜市社会福祉協議会では、これからの福祉教育(啓発)事業の方向性を示した【福祉教育(啓発)事業方針】を作成しました。次の内容をふまえ、自分たちの暮らす地域に根差した取組を実践していきます。

福祉教育(啓発)事業の枠組み

福祉教育

学校や地域の子どもたちを対象とし、福祉に関する教育的な学びを進める取組

福祉啓発

地域や企業などを対象とし、地域福祉に関する啓発的な取組

これまでの学校中心の取組だけでなく、地域や企業などに対しても、福祉の理解促進を図る啓発活動を進めていきます。

福祉教育(啓発)事業として扱うテーマ

これまで多く取り組んできた高齢や障害などの当事者理解と併せて、自分たちの住んでいる身近な地域の福祉課題などもテーマとして取り組んでいきます。

また、その地域を支えているさまざまな活動や、制度・サービスなど公的な仕組みも併せて伝えていくことで、思いやりや助け合いの大切さへの理解を促進していきます。

身近な地域の福祉を伝えていく役割として、その地域で暮らす当事者や地域団体などと協働し、福祉教育(啓発)事業を進めていきます。

福祉教育(啓発)事業を進める際に大切にする視点やプロセス

視点

- ・自分たちの暮らしている地域や、その地域の福祉課題に目を向けること
- ・地域で暮らしている子どもや高齢者、障害のある方などが居場所や役割を持って安心して暮らしていけるまちづくり

プロセス

次の4つのプロセスをふまえて実践していきます。

- ①気づく ▶ ②意識する ▶
③関わる ▶ ④支え合う(影響しあう)

これからの福祉教育(啓発)事業

横浜市社協では、福祉教育(啓発)の取組を重要な事業として位置づけ、多くの人たちが共感や関心をもち、お互いに支え合う(影響しあう)社会の実現を目指していきます。

各区社会福祉協議会には、福祉教育(啓発)事業の担当者がいます。

学校・地域・企業などで福祉教育(啓発)の取組をお考えの際には、ぜひご相談ください。

福祉教育(啓発)事業方針は、横浜市ボランティアセンターのホームページに掲載しています。



▲地域住民向けの視覚障害の理解を深める講座(中区第6地区)



▲地域住民による子ども達への高齢者疑似体験(豊田地域ケアプラザ)

ポウちゃんが行く! 勉強して役に立とう!! の巻



イラスト：和泉直子

問合せ先

横浜市ボランティアセンター ☎045-201-8620
<http://www.yokohamashakyo.jp/yvc/>

赤い羽根共同募金が10月1日からはじまります！ ～皆様のご協力をお願いいたします～

共同募金期間
10月1日～12月31日

共同募金は、地域で活躍する福祉団体や福祉施設の活動支援に役立てられます。

募金期間中、駅前やスーパーの前などの街頭で募金活動を行うほか、自治会・町内会、職場・学校などで募金協力の呼びかけを行っています。皆様の地域の福祉推進のためにご協力をお願いいたします。

共同募金は
あなたの街に
還ってきます。

25年度に皆様からお寄せいただいた共同募金（横浜市内）の総額は、約4億2千万円でした。

集められた募金は、県共同募金会の配分審査会で使い道が決定され、地域の活動に生かされます。

例えば

ボランティアやNPOなどの活動費

- 家事介護
- 食事サービス
- 送迎グループ
- 子育て支援 など



福祉施設の整備費として



- 障害者支援施設
- 保育園 ● 児童養護施設
- 母子生活支援施設 など

横浜市内や神奈川県内の 広い範囲で活動する団体の支援



- 障害児・者団体の連合会
- 更生保護に関する団体 など

その他、社会福祉協議会が地域での福祉活動を支援する資金として役立てられています。

“ありがとう”の メッセージ

待ちに待った車！ペットボトルキャップの回収や、作業所で作った製品を納品するため、車は必需品です。これまでは車が無く、他の事業所にお借りしていたため、相手の都合に合わせての活動でしたが、これからは自分たちの計画のとおり活動できるようになりました。

かねてから利用者のご家族から切実な要望があった、送迎にも取り組んでいきます。

これらは、皆様の温かいお気持ちがあったから実現できたことです。ハンドルを握るたび、そのことを忘れずに活動し、地域の皆様に愛される事業所になれるようがんばっていきます。

▶ つぼみの家専用の車で、活動の効率が大幅にアップ。利用者のみんなも張り切っています



障害のある人のための地域作業所「つぼみの家」（泉区和泉町）で、活動用の車両を購入するための費用として役立てられました。

▶ 車の購入費用の総額230万円のうち
共同募金から150万円を助成

今年の PR大使はラージャー君に決定

野毛山動物園協働事業

共同募金をもっと多くの方に知ってもらうために、24年度から野毛山動物園にご協力いただき、同園で人気の動物にPR大使をお願いしてきました。

今年度は、インドライオンの「ラージャー君」にPR大使をお願いしています。

10月4日（土）14時から、野毛山動物園にてPR大使任命式を行います。



26年度
インドライオンの
ラージャー君



24年度
フタコブラクダの
ツガルさん



25年度
アミメキリンの
テビチさん

Q 「高次脳機能障害」

って なんですか？



A

怪我や病気などで脳に損傷を負ったことにより、起こる障害です。

物の置き場所を忘れる、新しいことが覚えられないなどの「記憶障害」、二つのことを同時に行うと混乱する、作業を長く続けられないなどの「注意障害」、自分で計画を立てて実行することが出来ない、人に指示してもらわないと何もできないなどの「遂行機能障害」、思い通りにならないと大声を出す、自己中心的になるなどの「社会的行動障害」などの症状により、日常生活または社会生活に制約がある状態が高次脳機能障害です。

人によって表れる症状はさまざまで、見た目からはわかりにくく、本人の自覚症状も薄いため「隠れた障害」とも言われています。

オススメ

BOOK



『“本業を通じた社会貢献”としてのCSV経営』

社会の課題解決と企業経営の両立を図ることで、地域社会と企業（上場各社から中堅中小企業まで）がお互いに持続的な発展をしていくというCSV経営（Creating Shared Value）という考え方を伝えており、単に企業の社会貢献ではなく共に課題を解決していくという視点が興味深い一冊です。

「本業を通じた社会貢献」としてのCSV経営の類型化や、そのあり方、筆者の実体験などが読みやすくまとめられています。

戸村智恵（とむら ともり）／著
アロハ出版（日本マネジメント総合研究所LLC）／発行
756円（税込）／定価

相手を尊重する姿勢



福祉って

／ここがおもしろい／
／ここがむずかしい／



千代田化工建設
CSRセクション
シニア・コンサルタント
まつおか 数実
松岡 数実

私は「企業の社会的責任（CSR）」に関する部署で勤務しています。業務を通じて、CSRとは人々のお役に立つことを継続して行い、社会から信頼を得ることだと実感しています。

当社の例では、クリーンエネルギーの天然ガスの液化プラントを建設してエネルギーの安定供給と環境の保全に寄与することや、横浜市社会福祉協議会と協力して障がい者の方が製作した「ハートメイド」製品の社内販売を行うなど、本業および本業以外の二通りで社会の課題にソリューション（解決）を提供することです。

これらの活動において「お役に立ちたい」という思いが独りよがりにならないように、関係する全ての人々とのコミュニケーションにおいては、常に相手を尊重し丁寧に耳を傾け、期待されていることを正確に把握しようとする姿勢が一番大切ではないかと感じています。

福祉においても同じではないでしょうか。様々な背景を持つ人々に温かく接し、丁寧にきめ細かい対話を心がけ、相手の求めていることをバランスよく実現に向けて行うことと、粘り強い努力の継続にやりがいい（おもしろい）と、むずかしさがあるのではないのでしょうか。

みんなのきもち あいがとう

みなさまから寄せられたご寄付は、市内の市民活動団体、障害児・者団体の支援のため、有効に活用させていただきます。

こんな活動に
役立てられています！

よこはま ふれあい助成金 助成事業
アリシアの会

誰もが安心して共に暮らせる地域を目指して

精神障害者の家族同士で支えあうことや継続的な学習会を通して、家族自身のエンパワメント※1を図り、精神障害者のリカバリー※2と社会参加を支援する活動を行っています。

ファミリー サポート 相談事業

家族会員を対象に面談、電話、訪問、病院などに同行しています。

研修会 事業

病気の理解などの学習会を開催し、事例検討、スキルアップのための相談研修を行っています。



▲公開講座の様子

公開講座 事業

家族の抱えている問題について、理解を深め、連携を図るために家族向けに公開講座を実施しています。

今後も事業を継続し、障害への理解を深める啓発活動により、誰もが安心して共に暮らせる地域づくりを目指していきます。

※1 自分自身の力で問題や課題を解決していくことができる社会的技術や能力を獲得すること

※2 精神保健福祉分野で、精神疾患のある患者が自己実現や生き方を主体的に追求するプロセスのこと

【問合せ】横浜市ボランティアセンター ☎045-201-8620

寄付者のご紹介

ご支援・ご協力ありがとうございました。順不同・敬称略
26年4月1日～6月30日分

善意銀行 金銭寄付者

- 日清オイリオグループ 株式会社
- コールグリーンロード
- D'STATION 綱島店
- ヨコハマいきいきポイント
(活動者11名より転換金寄付)
- 匿名

善意銀行 物品寄付者

- ライオン 株式会社
- 横浜DeNAベイスターズ
アーロム・バルディリス

- 横浜スタジアム オーナーズクラブ
会長 竹村 泰長

- JX日鉱日石アイティソリューション 株式会社
- 匿名

よこはま あいあい基金寄付者

- 健康麻雀の会連絡会議
- コーヒーの大学院 ルミエール・ド・パリ(2件)
- 西区70周年記念健康麻雀大会
- NPO健康麻雀の会
- 宗教法人 日本敬神崇祖自修団 横浜道場
石毛 勝彦

- ヨコハマいきいきポイント
(活動者2名より転換金寄付)
- 匿名

障害者年記念基金寄付者

- ふれあいチャリティバザー実行委員会
- ヨコハマいきいきポイント
(活動者26名より転換金寄付)

福祉基金寄付者

- 日本國風流 詩吟吟舞会 神奈川県地区本部
- ヨコハマいきいきポイント
(活動者2名より転換金寄付)

賛助会員のご紹介

ご支援・ご協力ありがとうございました。順不同・敬称略
26年5月1日～7月31日新規受付分・継続受付分

団体会員

- 知恵プラス株式会社

個人会員

- 山口 雅子
- 加藤 芳保
- ほか1件



賛助会員になっていただけませんか

賛助会員は、横浜市社会福祉協議会の行うさまざまな地域福祉推進の“サポーター”として会費による支援を行っています。会員はいつでも、どなたでもなることができます。

【年会費】(個人)ー〇 2,000円 (団体)ー〇 10,000円

【お問合せ】横浜市社会福祉協議会 総務部

☎045-201-2096 FAX:045-201-8385

みなさまのご協力をお待ちしています。

みんなの声

前号の感想

「ボラちゃんが行く!」わかりやすく、かわいいですね。20年程前桜木町のボランティアセンターへ行ったことがあります。60才過ぎてお休みしましたが、私にも何か出来るか考えています。(保土ケ谷区 匿名希望)

一番関心のある「認知症」がテーマで、各記事を拝読致しました。皆様それぞれの持ち場で、一生懸命に頑張っておられる姿が良く分り、感銘致しました。また、自分の区の状況が分かり、参考になりました。(旭区 米重 泰久さん)

「認知症」など、タイムリーな話題が取り上げられているので、とても興味深く読ませていただいています。また、身近なところで活動されているボランティアさんたちの活動ぶりにも、しっかりと光が当てられているので、非常に参考になります。これからも注意深く読ませていただきます。(金沢区 西谷 信義さん)

私共夫婦もすでに傘寿は過ぎ、急な下り坂の人生を歩んでおります。今号の特集で立派な支援に取り組んでおられる方々の多いことを知りました。適切な支援を受けて普通の人生を歩んでいる人々も多いことでしょう。サポーターの方々の活動に感動・感激した次第です。(磯子区 澤田 隆さん)



元横浜(南区)住民です。現在は隣の市ですがさまざまな取組がわかりやすく掲載されていてとても勉強になります。(川崎市 匿名希望)

福よこクイズ

たくさんのご応募、お待ちしております!

- Q1** 特集: 25年3月から「都田地区子育て〇〇〇~IKEA 港北で遊ぼう!」がスタート。(カタカナ3文字)
- Q2** 福祉のしごと: 発達や心身に障害のある子ども~高齢者を対象に、日常生活や就労に必要な能力の維持・改善を指導する〇〇療法士。(漢字2文字)
- Q3** Let's try ボランティア: 寺尾地区センターで行われた「〇〇〇〇こどもまつり」ではボランティアが大活躍。(カタカナ4文字)

前号172号の福よこクイズの答えは、Q1:11 Q2:ケアマネジャー Q3:月曜でした。たくさんのご応募ありがとうございました。

応募方法

はがき・FAX・EメールにてQ1~Q3のクイズの答え・郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号・「福祉よこはま」の入手方法と「福祉よこはま」への感想(※みんなの声に掲載する場合があります。匿名希望の場合はイニシャル記載)をご記入の上、下記までお送りください。抽選で20名の方にプレゼントを差し上げます。

締め切り: 26年10月31日(金)

〒231-8482 横浜市中区桜木町1-1
横浜市社会福祉協議会「福よこクイズ」係
FAX: 045-201-8385
Eメール: fukuyoko@yokohamashakyo.jp



※応募に関わる個人情報については、当選者への発送および福祉よこはま紙面作成の参考により利用させていただきます。

編集後記

●特集の取材時に「IKEA港北も農地も人も全て地域の財産。それらを生かして地域の子どもたちを育てていきたい」と話していた都田地区の方たち。「子どもこそが世界で一番大切なひとたち」というイクアの企業理念ともピッタリ合い、相思相愛で始まった子育てサロンは、地域の大人たちに見守られた優しい雰囲気でした。

福祉よこはま

No.173
26年9月12日

次号 No.174
26年12月 発行予定

発行: 社会福祉法人 横浜社会福祉協議会
〒231-8482 横浜市中区桜木町1-1
☎045-201-2090 FAX: 045-201-8385
Eメール: fukuyoko@yokohamashakyo.jp
URL: http://www.yokohamashakyo.jp
デザイン: (株)オールスタッフ

広告



携帯メールマガジン「はまのタスケ・メール」では、相談の多い契約トラブル等の事例を紹介しています。

「はまのタスケ・メール」で悪質商法の手口を知って、キッパリ「**NO!**」と断りましょう!

登録は簡単!

yokohama@star7.jp

まで空メールを送信。
送られてきたメールから、
登録フォームを入力。
「登録」ボタンを押して完了!



QRコードからも登録できます。



商品・サービスの契約トラブルなどの、消費生活に関する相談を受け付けています。

相談専用電話 ☎045-845-6666

受付 平日9:00~18:00 土・日9:00~16:45
(祝日・休日・年末年始 12/29~1/3を除く)

〒233-0002 横浜港南区上大岡西1-6-1 ゆめおおがおオフィスタワー4階



はまのタスケ デザイン協力 横浜デジタルアート専門学校 グラフィック科

平成26年度

<http://www.fukushihoken.co.jp>

全国200万人加入!!

ふくしの保険

検索

ボランティア活動保険

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償



対象となるボランティア活動

- ◆グループの会則に則り企画、立案された活動であること
(グループが社会福祉協議会に登録されている必要があります。)
 - ◆社会福祉協議会に届け出た活動であること
 - ◆社会福祉協議会に委嘱された活動であること
- ※活動のための学習会または会議などを含みます。
※自宅などとボランティア活動を行う場所との通常の経路による往復途上を含みます。

保険金をお支払いする主な例

- ・清掃ボランティア活動中、転んでケガをした。(ケガの補償)
- ・活動に向かう途中、交通事故にあった。(ケガの補償)
- ・活動中、食べた弁当でボランティア自身が食中毒になった。(ケガの補償)
- ・家事援助ボランティア活動で清掃中、誤って花びんを落としてこわした。(賠償責任の補償)
- ・自転車でボランティア活動に向かう途中、誤って他人にケガをさせた。(賠償責任の補償)

補償金額(保険金額)・保険料

		Aプラン	Bプラン
ケガの補償	死亡保険金	1,200万円	1,800万円
	後遺障害保険金 (限度額)	1,200万円	1,800万円
	入院保険金日額	6,500円	10,000円
	手術 保険金	入院中の手術	65,000円
		外来の手術	32,500円
	通院保険金日額	4,000円	6,000円
賠償責任の補償	賠償責任保険金		5億円 (限度額)
	賠償責任保険金		5億円 (限度額)
年間保険料	基本タイプ	300円	450円
	天災タイプ*	460円	690円

*天災タイプでは、天災(地震・噴火・津波)に起因する被保険者自身のケガを補償しますが、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。

ボランティア行事用保険

地域福祉活動やボランティア活動の一環として行われる各種行事におけるケガや賠償責任を補償!

- 行事参加者(主催者[個人]を含みます。)全員のケガを補償(往復途上も含みます。)
- 行事主催者の損害賠償責任も補償

送迎サービス補償

送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償!

- 送迎・移送サービス利用者を特定したAプラン
- 送迎・移送サービスのための自動車を特定したBプラン

福祉サービス総合補償

ヘルパー・ケアマネジャーなどの活動中のケガや賠償責任を補償!

- 在宅福祉サービス
(公的介護保険対象外サービスを含みます。)
- 障害福祉サービス
- 児童福祉サービス
- 障害者地域生活支援事業 など
- 地域福祉サービス

● お申込み、詳しい内容のお問合せは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

団体契約者

社会福祉法人
全国社会福祉協議会

〈引受幹事保険会社〉日本興亜損害保険株式会社
TEL:03(3593)6245

取扱代理店

株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763
受付時間:平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約です。